道具で変わる! 効率アップ清掃術

第5回 夏の大敵、雑草。装備を整え、除草剤とねじり鎌で対処する

この連載では、アパートやマンションの清掃をもっと楽に、きれいにする方法を、使用する道具とその使い方を交えながら伝授します。

第五回は『雑草の除草』です。炎天下の雑草取りはできるだけ手早く終わらせたいもの。薬剤を上手に使って効率をアップしましょう。

雑草の対処は早期のうちに

共用部清掃でよくご相談いただくことのひとつに、雑草の問題があります。真夏の炎天下での除草作業はできるだけ短時間で終わらせたいものですが、そのために一役買ってくれるのが除草剤です。

除草剤には、顆粒（粉末）の粒剤と液体の液剤がありますが、使いやすさとコストパフォーマンスの点から、巡回清掃では液剤を主に使用しています。

粒剤は土に対して薬剤をまきますが、液剤は草そのものに薬剤をかけます。草が枯れるまで通常2～3週間を要しますが、ポイントは、雑草が小さいうちに枯らせてしまうこと。小さいうちであれば、枯れてしまえば目立たなくなり、いずれ跡形なく自然にかえります。【写真①】のように大きくなってしまった草を枯らせると、そのままでは見栄えがしませんから、結局は立ち枯れした草を手で抜き取っていかなければなりません。

▶大きく育ってしまった雑草。小さいうちの処理を心がける

原液から無農薬まで目的別に選べる

液剤ですが、これまでは【写真②】のようなシャワータイプのものが主流でしたが、今ではスプレータイプのものも販売されています【写真③】。スプレータイプのものは小スペースに散布するには便利ですが、噴霧時に吸引してしまわないよう注意が必要です。

コストを抑えるのであれば、除草剤の原液を購入し、水で希釈して使用するようにします。通常は100倍程度に希釈して使用しますが、その場合の除草剤のコストは、【写真②】のような「そのまますぐ使える」タイプのものに比べ、約25分の1に抑えることができます。

▶従来の主流だったシャワータイプ

なお希釈した除草剤を散布する道具としては、ジョウロが手軽でおすすめです。

「除草剤は人や動物・ペットに危害が及びそうで怖い」ということであれば、食品由来成分で作られた無農薬除草剤を選択するのもひとつです。

希釈した除草剤をジョウロで散布すると便利

草を取るときは根からしっかり抜く

植栽や植木の周囲にある雑草に除草剤を使用すると花や木を枯れさせてしまう危険性があります。それゆえ、そのような場所は、手作業での除草となります。

草を取る際は、手間はかかりますが、できれば根からしっかり抜くようにします。引きちぎるように草をむしったり、刈り払ったりすると、残った根からまた草が伸びはじめます。

▶スプレータイプは吸引しないよう注意を

草取り道具としてさまざまなものが販売されていますが、おすすめするのは「ねじり鎌」【写真④】です。使い方は潮干狩りをするときの要領と同じです。地面に鎌を立て奥から手前に引きます。根が強い草については、もう一方の手で草を引き上げながらねじり鎌で根を掘りおこすようにします。

広いスペースの草取りをする場合はそれなりに装備も必要です。麦わら帽などをかぶり日差しから頭部を守るのはもちろんとして、蚊の襲撃に備えて【写真⑤】のようにネット付きの日よけ帽をかぶるのもひとつです。

草の種類によっては肌に触れることで皮膚がかぶれてしまうことがありますので、腕カバーもしっかりつけます。また長時間の作業に及ぶ場合は、膝あてをつけることで負担の軽減にもつながります。

長い時間の連続作業は避け、早朝や曇りがちのタイミングを狙って無理のない範囲でがんばりましょう。

◀草刈りにおすすめの「ねじり鎌」

◀虫よけ対策などは万全に

清掃の極意三カ条

【壱】草が小さいうちに手を打つべし
【弐】ねじり鎌を使い根から除草すべし
【参】装備を整えしっかり身を守るべし

たてものサービス
代表取締役
鈴木範之

出版社・編集プロダクションの編集者を経て、2003年金子商事・ダスキン中目黒店に入社。ハウスクリーニングやアパート・マンションなどの清掃現場を担当。2010年、中小規模のアパート・マンション・オフィスに特化した巡回清掃を行う「たてものサービス」設立。「人も建物も爽やかに」をモットーに、月間約500物件の「巡回点検清爽」を行っている。